

収益性の向上と消費者ニーズに対応した花き生産

花き研究室

令和8年度の主要な研究課題の概要

○「農業副産物を活用した高機能バイオ炭の製造・施用体系の確立～小ギク栽培における高機能バイオ炭施用の影響調査～」(R5～R9)

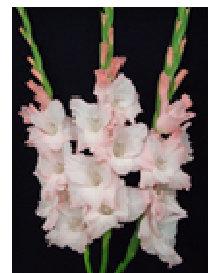
近年、脱炭素社会実現に向けた動きとして、農業分野ではバイオ炭による炭素貯留が注目されています。バイオ炭施用による土壌物理化学性改善や収量増加などの効果が報告されているため、小ギク栽培におけるバイオ炭施用の品質への影響調査や、小ギクへの適応・普及性を評価します。

○「高温環境に対応した施設花き安定栽培技術の開発」(R8～R11)

カーネーション、バラ等の施設花きにおいて、近年、夏季高温による苗の活着不良や株養成の遅れより出荷量減少・品質低下が問題となっています。そこで、植物への高温等のストレス耐性付与効果が期待されるバイオスティミュラント資材等の有効性や、カーネーションにおける白色LED照射による収量性向上効果を確認し、高温環境下における多収・安定栽培技術を開発します。

○「グラジオラス県育成品種の効率的球根増殖・切り花生産省力化技術の開発」(R6～R8)

県内産地では県育成品種を積極導入していますが、球根生産量が減少傾向で産地需要を満たせていません。また、新品種「常陸はつゆき」等が育成され、早期増殖が求められています。そこで、県育成グラジオラス品種の早期普及を図るため、球根の効率的な増殖や省力化に資する技術を確立します。



「常陸はなよめ」

令和7年度の主な成果

トルコギキョウ1番花におけるEOD-FR処理期間が切り花品質に及ぼす影響

トルコギキョウ1番花において、定植から発蕾期までのEOD-FR処理することで、花首の伸長を抑えつつ切り花長を伸長させ、出荷等級が向上します。さらに、資材を移設して使用することにより初期の設備投資を抑えられます。

表 EOD-FR処理期間の違いによる経済性資産

	規格割合(%)				植込量 (千円)	処理費用(千円)			所得差 (千円)
	S	M	L	2L		資材費	電気代	労賃	
無処理区	28.4	25.2	40.6	5.8	5,312	0	0	0	0
2週間区	17.9	34.0	25.9	12.2	5,297	22.7	1.9	17.8	25.4
4週間区	2.6	20.6	23.7	53.2	5,297	86.8	6.0	10.8	72.6
開花区	1.3	6.6	28.8	64.4	5,105	113.6	11.4	10.8	135.7

※10aあたり、R6年度所内試験データで試算

※EOD-FR照射資材(LED電球、ソケット、ケーブル、タイマー)794千円を7年で償却

※2週間区は必要資材1/5を4回移設、発蕾区は必要資材1/2を1回移設して試算

※9W×160個×3h×EOD-FR処理日数、31円/kWhで試算

※労賃は(電照設置4h+電照片付け2h)×時給1,800円/hで試算

※規格・単価:S:40-50cm(200円)、M:50-60cm(220円)、L:60-70cm(265円)、
2L:70cm<(280円)

9月彼岸出荷向け白色小ギク新品種「ひたち29号」、「ひたち30号」の育成

生物工学研究所と連携して、季咲きで8月下旬から9月下旬に採花できる白色系統で、9月彼岸出荷向けに適する「ひたち29号」、「ひたち30号」を育成しました。

両系統ともR8年に品種登録出願予定です。



小ギク「ひたち29号」



小ギク「ひたち30号」

今後の方向

○地球温暖化や異常気象多発に対応した高品質・安定生産技術を開発します。

○機械導入による省力化や、環境負荷が少なく、生産性を向上させる技術を開発します。